

2019年度

事業報告書

事業報告の附属明細書

公益財団法人かわさき市民活動センター

目 次

事業報告書

1 当法人の現況に関する事項	1
(1) 事業の経過及びその成果	1
(2) 直前 3 事業年度の財産及び損益の状況	1
(3) 主要な事業内容	2
(4) 重要な契約に関する事項	2
(5) 職員に関する事項	2
(6) 役員会等に関する事項	2～3
2 役員等に関する事項	4
(1) 理事	4
(2) 監事	4
(3) 評議員	4～5
(4) 役員等の報酬	5

事業報告の附属明細書

I 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況…	6
II 事業の実施状況について補足すべき重要事項【事業の概要】…	6
1 市民活動推進事業	6～15
2 青少年健全育成事業	16～42
3 法人の運営	43

事業報告

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

はじめに

当財団の使命は、「川崎市における市民活動支援の中間支援組織として市民相互の連携を図りながら市民活動の活性化を促進するとともに、青少年の心身の健全な育成を図るため、青少年事業の推進及び地域組織への支援を行い、もって住みよい地域社会の確立に寄与する」ことが定款第3条に定められています。2019年度においても「市民活動推進事業」及び「青少年健全育成事業」を2本の柱として、地域の関係団体・関係機関と連携した事業展開を図りました。

「市民活動推進事業」では、市民活動が活発になり市民創発を促すことを意識し、情報発信、講座、交流、専門相談、助成金等の各事業の連携と相乗効果の発揮を目指しました。加えて、かわさき市民公益活動助成金運営事業では、初めての伴走支援を試行したほか、次年度の申請書の改訂と助成メニュー新設を行い、助成金の成果がさらに高まるように事業運用を改善しました。

「青少年健全育成事業」では、子どもたちが安心して楽しく過ごせる居場所となるよう、多彩な事業を実施しました。2019年度から5年間の指定管理者として、2020年度に再開設する小杉こども文化センターを含めて、こども文化センター53館及びわくわくプラザ102校を受託することとなりました。受託業務の初年度として万全な体制を整えながら、仕様に即した安定した運営を行うとともに、こども文化センターの団体利用の拡充に向けた見直しを行うなど施設利用の推進を含め事業を進めました。

また、法人として確実な組織運営と健全な財政運営を心掛けた経営を行い、公益目的事業の推進を図りました。

こうした状況の中で、2月以降の新型コロナウイルスの感染拡大により、会議及びイベントの中止、事業の縮小、施設の閉館などの対応が必要とされ、事業の運営にも少なからず影響を受けることとなりました。感染拡大も留まる気配がない中で、職員の安全安心を含めて今後の事業運営を円滑に進めていくことが重要で喫緊の課題ともなっています。

1 当法人の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果 (3月補正後) (単位：千円)

事業別【経常収益】	予算現額	執行済額	執行率
市民活動推進事業	97,982	95,149	97.11%
青少年健全育成事業	3,069,530	3,087,908	100.60%

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況 (単位：千円)

区 分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 (当事業年度)
経 常 収 益	2,870,310	3,018,763	3,078,087	3,230,523
当期経常増減額	△17,627	△15,600	△52,817	39,348
正味財産期末残高	298,438	283,046	230,248	269,536

(3) 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
市民活動推進事業	・市民活動に関する情報の収集・提供及び啓発事業 ・市民活動に関する調査・研究事業 ・市民活動に関する人材育成及び相談事業 ・市民活動の促進・支援事業 ・関係機関・関係団体等との連携 ・その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）
青少年健全育成事業	・青少年の健全育成に関する事業 ・青少年施設の管理運営の受託 ・関係機関・関係団体等との連携 ・その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）

(4) 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約金額	契約期間	契約の概要
2019年4月1日	川崎市	合計 2,696,442,188 円	2019.4.1 から 2020.3.31 まで	川崎市こども文化センター指定管理業務の受託に伴う年度協定書

(5) 職員に関する事項**(2020年3月31日現在)**

職名等	氏名	就任年月日	担当事務	備考
事務局長	濱舘 幸二	2016.06.13	事務局の総括	重要な使用人
総務課長	秋田 達也	2016.07.01	課の総括	
市民活動推進課長	犬塚 裕雅	2017.04.01	〃	(参事)
青少年事業課長	大倉 萬里子	2010.10.01	〃	(参事)
青少年事業課主幹	島 忍	2010.10.01	エリアマネージャーの総括	
その他の職員（派遣職員を除く。）				1,805 人

(6) 役員会等に関する事項**ア 理事会**

会議名	開催年月日	議 題	会議の結果
第 1 回	2019年 5月31日	議案（決議事項） 第 1 号 平成 30 年度事業報告及び決算について 第 2 号 令和元年度 5 月補正予算について 第 3 号 令和元年度第 2 回評議員会の開催について 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 1 専決処分（決議事項）	可決 可決 可決

		第 1 号 協定書の締結について 2 報告事項 第 1 号 特定費用準備資金の支出結果について	可決 了承
第 2 回	2019年 11月22日	議案（決議事項） 第 1 号 令和元年度補正予算の専決処分の承認について 第 2 号 令和元年度 11 月補正予算について 第 3 号 令和元年度第 3 回評議員会の開催について 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告事項 第 1 号 令和元年度上半期の事業等について	可決 可決 可決 了承
第 3 回	2020年 3月16日	議案（決議事項） 第 1 号 規則の改正について 第 2 号 令和 2 年度事業計画について 第 3 号 令和 2 年度収支予算等について 第 4 号 令和 2 年度第 1 回評議員会の開催について 第 5 号 重要な使用人の選任及び解任について 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告 報告事項 第 1 号 職員採用選考及び昇任試験の結果について 第 2 号 小学生向け推薦図書の寄贈について	可決 可決 可決 可決 可決 了承 了承

イ 評議員会

会議名	開催年月日	議 題	会議の結果
第 1 回	2019年 4月18日	報告事項 報告第 1 号 規則の改正について 報告第 2 号 平成 30 年度 3 月補正予算について 報告第 3 号 平成 31 年度事業計画について 報告第 4 号 平成 31 年度収支予算等について 報告第 5 号 職員採用選考及び昇任試験の結果について 報告第 6 号 全市的イベントの実施結果について	了承 了承 了承 了承 了承 了承
第 2 回	2019年 6月20日 (定時評議員会)	決議事項 議案第 1 号 平成 30 年度事業報告及び決算について 報告事項 報告第 1 号 令和元年度 5 月補正予算について 報告第 2 号 協定書の締結について 報告第 3 号 特定費用準備資金の支出結果について	可決 了承 了承 了承
第 3 回	2019年 12月5日	報告事項 報告第 1 号 令和元年度補正予算の専決処分について 報告第 2 号 令和元年度 11 月補正予算について 報告第 3 号 令和元年度上半期の事業等について	了承 了承 了承

2 役員等に関する事項

(2020年3月31日現在)

(1) 理事

役職名	氏 名	任 期	常 勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
代表理事 (理事長)	小倉 敬子	2018.6.21 から 2020.6 定時評議員 会の終結の時まで	常 勤	有	LET'S 国際ボランティア交流会 代表
副理事長	鈴木 眞智子	〃	非常勤	〃	特定非営利活動法人 水・防災機構 理事長
副理事長	福田 武雄	〃	〃	〃	川崎市青少年育成連盟 副理事長
代表理事 (常務理事)	安藤 勲	〃	常 勤	〃	元川崎市議会局長
理 事	加藤 妙子	〃	非常勤	〃	おと絵がたり 代表
〃	新藤 みゆき	〃	〃	〃	川崎市 P T A 連絡協議会 副会長
〃	深瀬 浩由	〃	〃	〃	川崎市レクリエーション連盟 会長
〃	福芝 康祐	〃	〃	〃	社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 事務局長
〃	宮津 健一	〃	〃	〃	公益財団法人 川崎市生涯学習財団 副理事長
〃	吉田 輝久	〃	〃	〃	川崎市全町内会連合会 会計

(2) 監事

役職名	氏 名	任 期	常 勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監 事	岩森 耕太郎	2018.6.21 から 2020.6 定時評議員 会の終結の時 まで	非常勤	有	特定非営利活動法人 かわさき MOVEARTOO 隊 理事長
〃	志村 佳徳	〃	〃	〃	税理士

(3) 評議員

役職名	氏 名	任 期	常 勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
評議員	齊藤 準	2018.6.21 から 2022.6 定時 評議員会の終結 の時まで	非常勤	有	特定非営利活動法人 川崎市視 覚障害者福祉協会 理事
〃	佐治 克哉	〃	〃	〃	川崎フロンターレ後援会 常務理事
評議員	菅原 陽子	〃	〃	〃	夏菟太鼓 代表
〃	竹井 斎	〃	〃	〃	特定非営利活動法人 アクト川崎 理事長
〃	土澤 稔	〃	〃	〃	元川崎市立中学校校長
〃	永津 英二郎	〃	〃	〃	税理士
〃	仁藤 公子	〃	〃	〃	元川崎市立小学校校長
〃	前田 成東	〃	〃	〃	東海大学教授

〃	谷島 義雄	〃	〃	〃	宮前区子ども会連合会 会長
---	-------	---	---	---	---------------

(4) 役員等の報酬

区 分	人 数	報酬の総額	備 考
理 事	10人	6,232 千円	常勤及び非常勤
監 事	2人	128 千円	非常勤
評議員	9人	192 千円	非常勤
合 計	21人	6,552 千円	

注1；理事、監事及び評議員の報酬額は、2014年12月8日開催の評議員会において了承された「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」において定められている。

2；評議員の報酬の限度額は、定款第15条において、毎年度総額30万円を超えないものとされている。

事業報告の附属明細書 《令和元年度事業報告》

(2019年4月1日～2020年3月31日)

I 役員の他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況

役員の主な他の法人等の代表状況等については、4頁「2 役員等に関する事項」のとおりです。

II 事業の実施状況について補足すべき重要事項【事業の概要】

1 市民活動推進事業

全市・全領域の市民活動団体の中間支援組織として、市民創発を促すことを意識し、市内の市民活動団体等への支援・育成に取り組みました。

(1) 活動拠点施設運営事業

今年度の利用登録団体数は、新規44団体、計771団体でした。

施設・設備名	2018 年度		2019 年度		前年度同期比較（増減）	
会 議 室 A	589 団体	6,200 人	563 団体	5,611 人	△26 団体	△589 人
会 議 室 B	532 団体	4,969 人	493 団体	4,503 人	△39 団体	△466 人
印 刷 室	573 団体	1,163 人	547 団体	1,097 人	△26 団体	△66 人
フ リ ー ス ペ ース	4,690 団体	20,091 人	4,108 団体	17,882 人	△582 団体	△2,209 人
パソコン（2 台）	427 団体	715 人	419 団体	812 人	△8 団体	97 人
ロッカー・大（72 台）	89 台		89 台		0 台	
ロッカー・小（ 9 台）	8 台		8 台		0 台	
レターケース(57 台)	43 台		40 台		△3 台	
市民活動ブース 1	認定 N P O 法人キーパーソン 21					
市民活動ブース 2	W o m e n ' s b o d y l a b o					
市民活動ブース 3	おと絵がたり					
市民活動ブース 4	ランドヌ東京					
市民活動ブース 5	一般社団法人だじゃれ活用協会					
施設・設備等利用合計	6,811 団体	33,138 人	6,130 団体	29,905 人	△681 団体	△3,233 人

(2) 情報提供・啓発事業

ア 情報紙「ナンバーゼロ」の発行

市民活動団体向けの情報紙を隔月7,500部(1・4面フルカラー、2・3面モノクロ)発行し、市内公共機関、関係団体に配布しました。今年度より利用登録団体への直接送付サービスを開始し、希望する91団体へ送付しました。

イ ボランティア・市民活動募集冊子「ボラ・ナビ」の発行

市内のボランティア募集情報を掲載した冊子「ボラ・ナビ 2020」を川崎市社会福祉協議会と共同で5,000部発行し、市内関係機関・団体、学校等に配布しました。

児童・生徒・学生向けの「ボラ・ナビ 2019 夏休み版」を3,500部発行し、



市内関係機関・団体、学校配布のほか、センターのウェブサイトへ掲載しました。夏休み版に掲載した 32 団体と、これを利用した子どもへアンケートを実施し、16 団体と 47 人から回答が寄せられ、結果をセンターのウェブサイトへ掲載しました。

ウ 神奈川新聞へのコラム「市民発」の連載

市民が市内の市民活動を知る機会として、神奈川新聞の協力のもと同紙の土曜版に「市民発 地域をつくる人・活動」と題したコラムに連載しています。今年度は市民記者 21 人が取材・執筆した記事を 43 回連載しました。

エ 市民活動ポータルサイト「応援ナビかわさき」の運営

市民活動団体が市民向けに提供するイベント・講座、ボランティア募集などの最新情報を掲載し、年間のアクセス総数は 45,872 件（月平均で約 3,822 件）でした。「応援ナビかわさき」の活性化を図るため、利用を促すチラシを利用登録団体へ送付しました。

メールマガジンをメルマガ会員（280 人）あてに年 12 回配信したほか、新着情報を応援ナビかわさきの T w i t t e r で発信し、ツイート数は 2015 年 7 月の開設以来、3,000 件を超えました。

オ 市民活動推進事業ページの充実

センター事業や市民活動の最新情報、リレーインタビュー記事など、団体向けおよび市民向けのコンテンツ充実に努め、年間のアクセス総数は 174,855 件（月平均約 14,571 件）と、前年度から 2 倍以上に増えました。F a c e b o o k では、講座・イベントの様子、最新情報を文章・写真でライブ発信しました。

カ 事業成果報告書の発行

市民活動推進事業の半期ごとの成果を「見える化」「伝える化」し、市民からの共感と支持を広く得るため、事業成果報告書を 6 月と 12 月に各 500 部発行し、賛助会員、関係団体および市内公共機関に送付しました。

(3) 活動促進事業

ア ごえん楽市（かわさきボランティア・市民活動フェア）の開催

9 月 21 日（土）に、かわさき市民活動センター及び中原市民館で開催し、84 団体（新規 17 団体）が出展し、約 1,600 人の来場がありました。

パネル展示 35 団体、団体企画 34 件、フリーマーケット 12 団体、パフォーマンス 4 団体の参加がありました。主催者企画では、地域活動スペースを提供している市内企業のパネル展示、N P O の若手エースを紹介した「U-50（アンダー50）」等の企画展示および交流、「こんな街になったらいい」との願いを来場者を書いてもらうコーナー、川崎産の野菜販売・ランチ販売などを実施しました。



イ ごえんカフェ（市民活動交流会）の開催

分野・領域・地域を越えた、市民活動団体等の相互交流・連携の促進を図るため、ごえんカフェ（市民活動交流会）を 11 月 30 日（土）に開催し、67 人の参加がありました。

少人数でテーマを話し合う「ミニカフェ」を 3 回開催しました。第 1 回（6 月 30 日）「スタートアップ・ステップアップ 30 交付団体限定ミニカフェ」は 12 団体 19 人、第 2 回（2 月 8 日）「【ご縁】を広げるコツ！～「初めまして名刺交換」の次の一手はこう打つ～」には 8 団体 9 人、第 3 回（3 月 10 日）「団体のための法律のツボ！」は 3 団体 4 人が参加しました。

これまでのごえんカフェの成果をまとめたリーフレットを 3,000 部発行しました。



ウ 大学と市民活動団体との連携・協働の支援

専修大学ネットワーク情報学部の授業で学生たちが市民活動団体（10 団体）と一緒に広報媒体を制作する取組を支援してきました。今年度はこの取組の 10 周年になるため、例年の広報支援に加えてこれまでの取組を紹介するプロモーション映像とパンフレットを制作しました。

2020 年 2 月 6 日（木）に、学生がその成果を発表する「かわさき N P O 映像交流会」をかわさき市民活動センターで開催しました。

（4）研修・人材育成事業

ア パワーアップセミナーの開催

市民活動団体向けのパワーアップセミナーを全 10 回開催し、そのうちセンター職員が講師として 2 回登壇しました。受講者アンケートによると、各講座への満足度は平均 96.5% となりました。

セミナー活用の成果事例の発表会を 3 月に催す予定でしたが新型コロナウイルス感染症の影響により中止し、2020 年度に順延しました。各回の概要については【11 頁：別表 1】に記載。

イ 市民記者養成講座の開催

神奈川新聞川崎総局長、市民記者（現役・卒業）の方や、広告・広報の専門知識を持つ方を講師に招へいし、記事の取材や編集方法等についての基礎講座を 2020 年 1 月 15 日から 2 月 26 日までの間に 5 回開催しました。14 人の受講者のうち、11 人が 2020 年度から新たに市民記者となります。

（5）相談事業

ア 職員による市民活動相談の実施

ボランティア活動を始めたいという相談、団体の設立や運営に関する相談、企業からの社会貢献活動の相談など、市民活動全般に関わる相談をセンター職員が対応し、年間で 35 件の相談がありました。

イ N P O 向け専門相談の実施

N P O 向け専門相談の実績は以下のとおりです。また試策として弁護士によるワークショップ形式の法務相談を実施しました。

区分	件数	共催
会計相談	7 件	東京地方税理士会
法務相談	1 件	行政書士オレンジ会（行政書士会川崎南支部有志）
	5 件	神奈川青年司法書士協議会

（6）連絡・調整事業

ア 市・区の市民活動支援担当者との定期的情報交換会等の開催

市民活動推進課（市民文化局）との定例会を 5 回開催しました。

イ 中間支援ネットワーク会議の開催

市内の市民活動に係る中間支援ネットワーク会議を 3 回実施し、テーマを設定し情報交換を行いました。

第 1 回： 7 月 11 日（木）「助成金事業」6 団体 12 人

第 2 回： 12 月 10 日（火）「交流イベント事業」6 団体 10 人

第 3 回： 3 月 10 日（火）「次年度の中間支援ネットワーク会議」5 団体 7 人

ウ 川崎市社会福祉協議会との連絡調整会議の開催

4月11日に川崎市社会福祉協議会・ボランティア活動振興センターとの連絡調整会議を開催し、事業計画についての情報交換及び共催事業に関する調整等を行いました。

(7) 職員等派遣事業

各団体の要請に基づき、役員6回、職員34回を講師等として派遣しました。派遣先の主催者や対象者等については【12頁：別表2（ア）】【12頁：別表2（イ）】に記載。

(8) かわさき市民公益活動助成金運営事業

2019年度かわさき市民公益活動助成金運営事業の実施状況は、次のとおりです。

募 集 期 間	2018年11月20日～2019年2月28日	
審 査 委 員 会	第一次審査（書類審査） 2月28日、3月4日 第二次審査（公開プレゼンテーション） 4月13日、14日	
審 査 結 果	スタートアップ助成 ・申請27団体 交付26団体 ステップアップ助成（30・100・200） ・申請41団体 交付36団体 組織基盤強化助成 ・申請7団体 交付7団体	合計 ・申請75団体 ・交付69団体
交 付 総 額 （ 決 算 額 ）	17,056,132円 （内訳＝川崎市：13,731,132円・河川財団：3,325,000円）	
そ の 他	・2018年度かわさき市民公益活動助成金 公開事業報告会 4月7日 ・組織基盤強化フォーラム（2018年度組織基盤強化助成報告会） 6月16日 参加者60人（22団体）、ブース出展11企業・団体	

(9) 川崎市災害ボランティアセンター運営支援

10月に市内に上陸した台風19号の被害を受け、川崎市が設置した川崎市災害ボランティアセンターを川崎市社会福祉協議会とともに運営し、センター職員を派遣しました。



(10) 川崎市からの受託事業

ア 川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度の窓口業務

川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度の窓口業務を受託しました。今年度の状況は、次のとおりです。

期 間	申請件数	支払件数	支払額	昨年度実績
2019年4月～2020年3月	28件	15件	541,200円	1,490,456円

なお、2013年度から町内会等から要請がある場合は、センター職員を派遣し、本事業についての説明等を行い、制度の周知・広報に努めています。派遣先の主催者や対象者等については【14頁：別表3】に記載。

イ 川崎市協働・連携ポータルサイト「つながっどKAWASAKI」管理・運営事業

川崎市から、協働・連携ポータルサイト「つながっどKAWASAKI」のコンテンツ情報

の拡充などを行う管理・運営業務を受託しました。

ウ ソーシャルデザインセンター開設に向けた多摩区フォーラム

多摩区から「ソーシャルデザインセンター開設に向けた多摩区フォーラム」の運営業務を受託し、7月28日（日）に多摩区役所で開催し、ソーシャルデザインセンター開設案（中間取りまとめ）について85人の市民が話し合いを行いました。

エ 令和元年度まちづくりカフェたかつ

前年度に引き続き、高津区から「令和元年度まちづくりカフェたかつ」を受託し、2020年1月18日（土）と2月15日（土）にnokutica（ノクチカ）で開催しました。1回目のゲストは株式会社はじまり商店街のくまがいけんすけさんで9人の参加があり、2回目のゲストは認定NPO法人こまちぷらすの大塚朋子さんで16人の参加がありました。

（11）職員研修

職員の資質向上や必要とする知識習得等を目的に、市内外で開催される研修やシンポジウムなどに派遣しました。派遣した研修の内容等については【14頁：別表4】に記載。

（12）賛助会員の確保

種別	会費 (1口)	2018年度末			2019年度末		
		会員数	口数	賛助総額	会員数	口数	賛助総額
個人会員	1,000円	59人	162口	162,000円	50人	131口	131,000円
団体会員	5,000円	29団体	34口	170,000円	28団体	33口	165,000円
合 計		88人・団体	196口	332,000円	78人・団体	164口	296,000円

（13）募金・寄付等の取組

ア ボランティア・市民活動募金

募金箱を当センター窓口やご協力を得た市内事業者各店舗へ設置しています。募金箱その他を合わせて、2019年度は165,268円の寄付がありました。

（14）その他

ア 後援名義の使用許可

申請のあった15団体に対して、後援名義の使用を許可しました。

イ 川崎市社会功労賞表彰

「令和元年度川崎市文化賞・社会功労賞・スポーツ賞・アゼリア賞」の社会功労賞に、NPO法人フリースペースたまりば理事長、子ども夢パーク所長、フリースペースえん代表 西野博之さんを推薦し、受賞しました。

〔別表1〕パワーアップセミナー

①当センター単独開催セミナー

開催日	内 容		参加数	開催場所
第 1 回 5 月 25 日	テーマ	絵のチカラでN P Oの会議を変える！はじめてのグラレコ	25 人	センター 会議室
	講 師	本園大介（グラフィックコミュニケーター）		
第 2 回 6 月 22 日	テーマ	伝えたい人に伝えるためのコツ	20 人	
	講 師	谷 浩明（杉並区広報専門監・クリエイティブディレクター）		
第 3 回 7 月 27 日	テーマ	人がホイホイ集まるチラシのコツ	12 人	
	講 師	並木節子（センター職員）		
第 4 回 9 月 8 日	テーマ	つながるまちづくり 企業×N P Oの協働と連携の可能性	17 人	
	講 師	大塚朋子（認定N P O法人こまちぶらす）		
9 月 29 日	テーマ	第 1 回パワーアップセミナー受講者向けグラレコ演習	6 人	
	講 師	本園大介（グラフィックコミュニケーター）		
第 5 回 2 月 22 日	テーマ	団体の世代交代～それぞれのカタチをみつける。 ＊台風 19 号により 10/12 より順延	19 人	
	講 師	富永一夫（N P O法人フュージョン長池）		
第 6 回 11 月 16 日	テーマ	ここだけの話 採択される事業提案のツボ	16 人	
	講 師	福森義之（センター職員）		

②川崎市社会福祉協議会との共催セミナー

開催日	内 容		参加数	開催場所
第7回 12月14日	テーマ	絵と文字でビジョンを可視化する。グラフィックレコーディング中級編	19人	中原区社会福祉協議会 研修室
	講師	本園大介（グラフィックコミュニケーター）		
第8回 2月2日	テーマ	多様な関係性を理解しあえるチームビルディング「システム・コーチング®で協働を体感する」	17人	エポック なかはら （川崎市 総合福祉 センター）
	講師	長浜洋二（モジョコンサルティング合同会社代表 町田市地域活動サポートオフィス事業統括ディレクター）		

③川崎市との共催セミナー

NPO法人向け特別連続講座

「たった一日でNPO法人の会計と税務の基本がわかるようになる」

開催日	内 容		参加数	開催場所
1月19日 （午前）	テーマ	NPO法人の日々の会計実務と決算	19人	センター 会議室
	講師	講師：原 淳子（原淳子税理士事務所）		

1 月 19 日 (午後)	テーマ	N P O 法人の税務		
	講 師	講師：原 淳子（原淳子税理士事務所）		

〔別表 2〕

(ア) 役員派遣状況

開催日	主催者	テーマ	対象者	開催場所
6 月 7 日	多摩区役所 保健福祉センター 地域みまもり支援センター	多摩区子育て支援者養成講座 「子育て支援イチ・ニ・サン」	市民	多摩区役所
6 月 17 日	高津区役所 地域支援担当	高津区健康づくりボランティア 養成講座 「私にもできる地域のための健康 づくりボランティア」	市民	高津区役所
7 月 31 日	宮前区役所 保健福祉センター 地域支援担当	宮前区健康づくりボランティア 養成講座 「ボランティアと地区組織活動： 地域でボランティア活動を行うた めに！」	市民	宮前区役所
10 月 23 日	多摩市民館	多摩市民館 識字ボランティア研 修 「識字（日本語）ボランティアと しての心構えについて」	市民	多摩市民館
11 月 6 日	川崎区役所	川崎区すくすく子育てボランティ ア養成講座 「ボランティアって何？～楽しく 続けていくために～」	市民	川崎区役所
2 月 26 日	宮前市民館	宮前市民館社会参加支援事業 シニアの力で高齢社会を幸齢社会 に 「地域が求めるシニアの力につい て」	市民	宮前市民館

(イ) 職員派遣状況

開催日	主催者	テーマ	対象者	開催場所
4 月 22 日	川崎市総務企画局 危機管理室	31 年度川崎市総合防災訓練の実施 及び全体会議	関係者	幸区役所
4 月 24 日	川崎区役所 地域振興課	川崎区企業市民交流事業 推進委員会	委員会 委員	川崎区役所
5 月 13 日	川崎区企業市民交流事 業推進委員会交流推進 部会	今年度事業他	委員会 委員	川崎区役所
5 月 19 日	宮前区まちづくり 協議会	活動支援金説明会及び審査会	市民活 動団体	宮前区役所
5 月 20 日	川崎市総務企画局 危機管理室	令和元年度川崎市防災訓練 作業部会	部会 委員	幸区役所
5 月 29 日	川崎区企業市民交流事 業推進委員会	中学校出前授業	生徒	川崎中学校
6 月 5 日	川崎市市民文化局 市民活動推進課	各区役所地域振興課 まちづくり推進係長	職員	かわさき市 民活動セン ター

開催日	主催者	テーマ	対象者	開催場所
6月7日	川崎市社会福祉協議会	各機関の福祉教育推進事業他	委員会 委員	市社協ボランティア交流室
6月19日	幸区ボランティアセンター運営委員会	ボランティアセンター 運営委員会	運営 委員	福祉パル さいわい
7月2日	川崎市総務企画局 危機管理室	川崎市総合防災訓練 第2回作業部会	部会 委員	災害対策本部 事務局室
7月10日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	中学校出前授業	生徒	田島中学校
7月26日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	川崎臨海部の夢発見！ バスツアー 運営協力	川崎区 在住親子	川崎臨海部
7月26日	国際おしゃべり サロン（団体）	国際おしゃべりサロン宮前研修	団体 会員	宮前市民館
8月3日	川崎市市民文化局協働・連携推進課	川崎ワカモノ未来プロジェクト ヒラメキLab	参加者 (若者)	PASAR BASE
8月4日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	かわさき企業市民交流 Day	市民	川崎ルフロン
8月22日	川崎市社会福祉協議会	災害ボランティアセンター設置訓練 (幸区) 開催	関係者	川崎市総合福祉センター
9月8日	川崎市総務企画局 危機管理室強化担当	令和元年度川崎市総合防災訓練の 実施	関係者	河原町グラ ンド
9月12日	川崎区企業市民交流事業推進委員会交流推進 部会	事業実施報告、今後の事業について	部会 委員	川崎区役所
10月8日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	かわさき産業ミュージアム 「オーディオを聴き学ぼう！日本コ ロンビアの産業技術史」	市民	教育文化会 館
10月17日	川崎市動物愛護センタ ー	犬・猫愛護ボランティア講習会	団体 市民	川崎市動物 愛護センタ ー
10月18日 ～20日	川崎市・ 川崎市社会福祉協議会	かわさき災害ボランティアセンター 運営支援	ボラン ティア	市社協ボラ ンティア交 流室
10月24日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	かわさき産業ミュージアム 「水道整備の歴史からみた川崎 市」	市民	川崎区役所
10月24日	専修大学ネットワーク 情報学部	応用演習（メディアプロデュース） 中間確認	学生	専修大学 生田校舎
10月30日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	川崎区企業市民による 中学校出前授業	中学生	渡田中学校
11月9日	川崎市市民文化局 協働・連携推進課	川崎ワカモノ未来 PROJECT カワプ ロカフェ	市民	新川崎タウ ンカフェ
11月20日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	川崎区企業市民交流事業推進委員会	企業 市民	川崎区役所

開催日	主催者	テーマ	対象者	開催場所
11月26日	川崎市動物愛護センター	犬・猫愛護ボランティア講習会	団体 市民	川崎市動物愛護センター
11月29日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	かわさき産業ミュージアムバスツアー	市民	入江崎から千鳥町
12月4日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	川崎区企業市民による中学校出前授業	中学生	京町中学校
12月1日	川崎市市民文化局協働・連携推進課	川崎ワカモノ未来 PROJECT カワプロカフェ	市民	川崎市役所第4庁舎
12月7日	川崎市市民文化局市民活動推進課	カワサキコネクト	市民	新城 PASAR BASE
2月18日	専修大学社会科学研究所定例研究会	川崎市における経済活動の実態と市民活動の現状	教員	専修大学生田校舎
2月19日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	川崎区企業市民交流事業推進委員会交流推進部会	企業 市民	川崎区役所
3月11日	川崎市社会福祉協議会	第4回福祉教育推進会議	職員	市社協研修室

[別表3] 川崎市市民活動補償制度職員派遣

開催日	主催者	対象者	開催場所
8月21日	宮前区道路公園センター	市民	宮前区役所
8月22日	中原区道路公園センター	市民	中原区役所
8月27日	幸区道路公園センター	市民	幸区役所
8月29日	多摩区道路公園センター	市民	多摩区役所
8月30日	高津区道路公園センター	市民	高津区役所
11月6日	川崎区道路公園センター	市民	川崎区役所
11月12日	麻生区道路公園センター	市民	麻生区役所
12月12日	川崎市公園緑地協会	市民	中原区役所

[別表4] 職員研修

開催日	主催者	内容	開催場所
4月18日	NPO 法人市民社会創造ファンド	工夫する助成～助成プログラムを企画開発し、運営し、更新する力とは？～	SOOO dramatic!!
6月17日	川崎信用金庫、日本政策金融公庫川崎支店、川崎市信用保証協会	知っておきたい！クラウドファンディング活用方法	Kawasaki-NEDO innovation Center
6月20日	川崎市市民文化局協働・連携推進部	「まちのひろば」のを見つけ方	川崎市役所第4庁舎
7月23日	川崎市総務企画局シティプロモーション	ウェブアクセシビリティ研修	川崎市役所第4庁舎

7月29日	かながわ県民活動サポートセンター	ボランティア活動支援「CEO ミーティング」	かながわ県民センター
9月16日	NPO インターンシップ ラボシンポジウム実行 委員会	まちに“小さな主人公”が育つしかけとは？	青山学院大学 青山キャンパス
10月16日	NPO 法人市民社会創造 ファンド	振り返る助成 ～市民活動のための評価とは～	SHIBAURA HOUSE
12月3日	内閣府（防災）	災害時における三者連携・協働に向けた研修会	かながわ県民センター
1月16日	横浜市立大学地域貢献 センター	地域指標を活用した住民参画型の持続 可能な地域づくり	横浜市立大学金沢八 景キャンパス
1月23日	パナソニック・日本 NPO センター	組織基盤強化フォーラム	パナソニックセンタ ー東京
2月13日	高津区役所地域ケア推 進担当	高津区地域包括ケアシステム交流会 つながり ひろがれ高津	高津区役所

2 青少年健全育成事業

これまでの経験と知識を活かし、こども文化センター52館・わくわくプラザ102施設等の適切な管理・運営に努めました。2019年度の主な取組は次のとおりです。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、川崎市立学校が臨時休業（3月4日から25日まで）となりました。また、こども文化センター及びわくわくプラザは「やむを得ない事情で見守る方がいない児童」のみを対象とした運営（3月4日から31日まで）となり、利用者数等に大きく影響がありました。

※2019年4月に小杉小学校わくわくプラザが開設されたため、わくわくプラザ数が102校となりました。

（1）こども文化センター事業

ア 基本方針

子どもたちの安全確保を旨とし、遊びや行事等にも工夫を凝らし、子どもたちが安心して楽しく過ごせる居場所づくりに取り組むとともに、様々な世代が集まる地域の拠点としての機能の強化にも取り組みました。

こども文化センター利用状況推移表

利用者種別	2017年度 (52館)	2018年度 (52館)	2019年度 (52館)	前年度比較 (増減)
乳幼児	297,274人	308,506人	284,338人	▲24,168人
小学生	684,186人	680,606人	615,983人	▲64,623人
中学生	213,712人	176,792人	152,000人	▲24,792人
高校生	36,993人	32,624人	28,437人	▲4,187人
成人	400,816人	413,773人	385,947人	▲27,826人
利用者合計 (一館あたり)	1,632,981人 (31,403人)	1,612,301人 (31,006人)	1,466,705人 (28,206人)	▲145,596人 ▲2,800人
内団体利用人数	294,601人	271,519人	239,132人	▲32,387人

イ 地域人材の育成と活動の場の提供

（ア）運営協議会との連携強化

全てのこども文化センターでは、地域と連携した館運営を行うために、地域の方々が委員となった、運営協議会を設置しています。運営協議会では、こども文化センターの様々な課題について協議を行い、施設利用のルール作りや地域団体との橋渡しを担うとともに、行事等にも積極的に参画するなど、その役割は多岐にわたっています。今年度は、全市で238回（各館平均5回）の運営協議会が開催され、延べ2,413名の運営委員の方に参加していただきました。また、各館では、運営協議会の委員の方々に、多くのご支援・ご協力をいただき「川崎区マンカラ大会」「必ず役立つ、こ文に泊まって防災体験」「植栽活動」「収穫祭」等の特色ある行事を開催しました。

さらに、区ごとに各館の運営協議会代表者が参加する「区運営協議会」を開催しまし

た。今年度は、全区で8回、延べ55人の委員の方が参加し、各館で取り組んでいる行事の計画・報告や各館共通の課題等について協議していただきました。

各館の運営協議会及び区運営協議会で出された意見や結論を集約し、行事日程や事業内容の確認・調整など、こども文化センターの運営に活かしました。

(イ) 地域活動の担い手の育成機能強化

利用児童で組織する「子ども運営会議」は、延べ635回（各館平均12回）開催され、延べ4,302人（各館平均83人）が参加しました。子どもたち自身の企画・運営により「スポーツ鬼ごっこ」「壁面倶楽部」「チャンバラ倶楽部」「かわさきかるた大会」等、様々な行事が実施されました。

また、中学生・高校生の利用に際しては、主体的な活動の尊重・支援を基本とし対応し「語り場」「スポーツ教室」「おばけやしき」「勉強カフェ」等、様々な工夫を凝らした行事に取り組みました。

これらの活動を通じて、子ども自身が地域の一員であることを自覚できるよう取り組み、地域活動の担い手となるよう育成・支援を図りました。

(ウ) 活動の場の提供機能強化

こども文化センターは地域の児童の健全育成に寄与するという目的施設ですが、児童の利用が少ない時間帯については、地域のボランティアや市民活動団体等の方々の活動の拠点として利用していただいています。

今年度は、地域の方々がさらに利用しやすい環境を整え、また、地域の顔と顔が見える関係を構築するため、児童の利用の少ない午後や夜間における団体利用方針を見直しました。新しい団体利用方針は2019年度10月から適用とし、その周知に努めました。

また、市民活動団体や地域の方々に協力いただき「N T T ドコモプログラミング親子体験教室」「犯罪から家族を守ろう！地域防犯講座」「子どもの才能発見講座」「地域防災講座」「ふれあいナイト公演」を企画・実施し、多世代連携を推進しました。

団体利用状況

団 体 種 別	2017年度 (52館)	2018年度 (52館)	2019年度 (52館)	前年度比較 (増減)
青 少 年	4,096団体	2,943団体	2,765団体	▲178団体
市 民 活 動	10,421団体	10,407団体	9,347団体	▲1,060団体
幼 児 G	5,736団体	5,645団体	5,231団体	▲414団体
そ の 他	407団体	454団体	301団体	▲153団体
計	20,660団体	19,449団体	17,644団体	▲1,805団体

音楽室が設置されている南河原、宮崎及び白山こども文化センターについては、中学生・高校生のほか、地域音楽活動の拠点として2,826団体・4,729人が音楽室を利用しました。各施設の利用状況については【27頁：別表1】に記載。

(2) わくわくプラザ事業

ア 基本方針

わくわくプラザは、すべての小学生を対象としています。そのため、日頃から小学校との連携を密にして、子どもたちの様子や学校の月間スケジュール、わくわくプラザの行事日程等の情報交換を行っています。子どもたちが、放課後・土曜・長期休業日等に安心して楽しく過ごすことのできる、また、保護者が安心して子どもを託すことができる事業運営に努めました。

また、子どもたちが過ごす場の環境整備として、各わくわくプラザに配当する図書購入費の予算を約2,040,000円(各施設平均20,000円)増額し、読書習慣の形成に取り組みました。

さらに、年度配当予算のほか、遊具予算7,610,000円、図書予算6,920,000円を追加配当し、子どもたちの居場所づくりを推進しました。

わくわくプラザ利用状況 年間利用状況推移表

種 別	2017年度 (101施設)	2018年度 (101施設)	2019年度 (102施設)	前年度比較 (増減)
在 校 児 童 数	64,989人	65,731人	66,222人	491人
登 録 児 童 数	31,507人 (937人)	31,934人 (1,049人)	32,731人 (1,465人)	797人 (416人)
登 録 率	48.5%	48.6%	49.4%	0.8%
利 用 人 数	1,993,858人 (84,297人)	2,132,105人 (98,509人)	2,127,963人 (138,424人)	▲4,142人 (39,915人)
1 日 平 均 利 用 者 数	6,805人 (288人)	7,302人 (337人)	7,338人 (477人)	36人 (140人)

※ () 内は特別な支援を必要とする児童の内数です。また、2019年度より「障がい」のほかに、「集団が苦手」「てんかん」「重度アレルギー」「日本での生活が慣れ」等、特別な配慮を要する児童の対象範囲が拡大されました。

イ プログラムの充実

利用児童で組織する「子ども運営会議」は、延べ1,248回(各わくわくプラザ平均12回)開催され、合計52,975人(各わくわくプラザ平均519人)が参加し、子どもたち自身の企画・運営により「わくわくハロウィン」「わくわくスタンプラリー」「お楽しみ会」「みんなであそぼう」「わくわくピクニック」等、様々な行事が実施されました。

また、各施設の地域状況に応じて、関係機関(幼稚園・保育園、学校、老人いこいの家、高齢者施設、地域の寺子屋、子ども会、地域団体・人材、企業、行政機関等)と連携して「保育園との交流会」「カロム教室」「精進料理を体験しよう」「JAXA宇宙教室」などを実施し、子どもたちに様々な体験活動を提供しました。

ウ 学習タイムの実施

子どもたちの学習習慣の形成を図るため、落ち着いて自学・自習ができる時間と場所を

確保して、学習タイムを実施しています。

また今年度より、全てのわくわくプラザにおいて、平日の17:00～17:30までを、学習タイムとし、利用児童全てがこの時間帯に、学校の宿題や持参した学習ドリル等に取り組みよう、取り組み方法を統一・強化しました。土曜日・長期学校休業日等については、時間帯や時間は各施設のプログラムに合わせて、必ず実施しました。

エ 「地域の寺子屋」との連携

川崎市の推進する「地域の寺子屋事業」の学習支援の取り組みを見学させていただいたり、土曜日の体験教室として「グランドゴルフ」「災害時体験」「昔遊び・工作教室」等に参加するなど、連携を強化しました。

オ 子育て支援・わくわくプラザ事業への対応

「子育て支援・わくわくプラザ事業」とは、川崎市が実施している事業で、就労等により、わくわくプラザの門限である午後6時までに児童のお迎えが難しい保護者のため、午後7時までわくわくプラザを延長するサービスのことです。当財団は、この業務を川崎市から受託し、全てのわくわくプラザで実施しました。

利用状況

種 別	2017年度 (101施設)	2018年度 (101施設)	2019年度 (102施設)	前年度比較 (増減)
登 録 児 童 数	2,528人 (63人)	2,601人 (67人)	2,841人 (136人)	240人 (69人)
延 べ 利 用 人 数	137,561人 (3,241人)	140,576人 (3,752人)	140,323人 (6,805人)	▲253人 (3,053人)
1 日 平 均 利 用 人 数	564人 (13人)	576人 (15人)	587人 (28人)	11人 (13人)

※（ ）内は特別な支援を必要とする児童の内数です。また、2019年度より「障がい」のほかに、「集団が苦手」「てんかん」「重度アレルギー」「日本での生活が不慣れ」等、特別な配慮を要する児童の対象範囲が拡大されました。

(3) こども文化センター・わくわくプラザ共通事項

ア 財団独自の取組

(ア) 複数館による合同事業の開催

同一区内又はグループ内児童の親睦と交流の輪を広げることを目的として、各こども文化センターが様々な行事に取り組み、延べ3,928人が参加しました。

各事業名と参加者数については【28頁：別表2】に記載。

(イ) いのちの大切さを伝える事業

こども文化センターでは「乳幼児親子と小中高生とのふれあい事業」を推進しました。この事業は、小学生・中学生・高校生の体験はもちろんのこと、保護者からも好評を得ました。

また、各施設で「いのちの大切さを伝える読み聞かせ事業」を実施し、地域の方々などに「動物愛護教室」「いのちの授業」「おしえてしょうぐうさん」「死んでくれた」「へ

いわってどんなこと？」等、命をテーマとした本の読み聞かせをしていただきました。

(ウ) 多様性への理解を深める事業

子どもたちが年齢・性別・障がい・国籍等、多様な人々への理解を深め、相手を思いやり、互いに認め合うことができる豊かな心を育成するため「変身！コウレイシャ」「中国の文化体験」「バリアフリー体験」「手話で遊ぼう」などを実施し、多様性への理解を深める取り組みを推進しました。

イ 多世代連携について

こども文化センターまつりを、多世代交流の象徴的な取り組みとして位置づけて実施しました。開催にあたっては、運営協議会や地域の方々、こども実行委員と連携し、飲食、ゲーム、工作などのブースに加え、地域住民や子どもたちの活動発表の場としてステージを設ける等、各施設で工夫して行いました。

また、各施設では、地域の様々な特技・知識等を持つ方々にボランティア講師となっただき、地域の子どもと大人が共に遊び、育み合う環境を醸成する取り組みとして「家族で学べるレスキュー講座」「絵手紙教室」「ハンドベルコンサート」等、様々な事業を実施し、ボランティアと子どもたちの交流を推進しました。

ウ 学校及び行政機関等との連携

円滑な事業運営に資するために、地域で開催される様々な会議（生涯学習推進会議、地域教育会議等の会議）に出席し、地域情報を得るとともに、こども文化センター・わくわくプラザの情報を提供するなど、情報の共有を図りました。

また、区役所（保健福祉センター・地域みまもり支援センター等）、地域団体（子ども会等）が実施する行事に積極的に参加し、地域関係機関等との連携強化に努めました。

主 催 者	開 催 日	内 容（総数）	参 加 数	開 催 場 所
川 崎 区	9月7日	かわさき区子育てフェスタ（1,600人）	620人	川崎市教育文化会館
幸 区	2月22日	みんなで子育てフェアさいわい （新型コロナウイルス感染防止のため中止）	0人	幸 市 民 館
中 原 区	11月30日	中原子ども未来フェスタ（3,000人） ※警備担当として参画	0人	中 原 区 役 所
高 津 区	8月25日	高津区子どもフェア（1,300人）	180人	新二子橋下周辺
宮 前 区	10月26日	宮前区 2019 子育てフェスタ（1,200人）	380人	宮 前 市 民 館
多 摩 区	9月15日	たまたま子育てまつり（4,000人）	500人	多摩区 総合庁舎
麻 生 区	9月21日	あさお子育てフェスタ（2,100人）	594人	麻 生 区 役 所 麻 生 市 民 館

※参加数は、各此文から引率参加した児童数及び出店したブース等に参加した児童数の合計です。

エ 特別な配慮を必要とする利用者への対応方法

特別な支援を必要とする児童に対し、より適切な対応が行えるよう、元特別支援学校の教諭や小学校の校長経験者等の巡回相談員を9人配置しました。巡回相談員は、豊かな経験と専門知識を持ち、当該業務に従事するスタッフのアドバイザーとして、またスタッフ

研修の講師として活躍しました。

また、学校や家庭との日頃からの連携・情報の共有に努めるとともに、発達相談支援センター・児童相談所・地域療育センター、放課後デイサービス等の関係諸機関との連携強化にも取り組みました。

オ 安全・安心の確保

(ア) 事故について

児童の安全・安心の確保は本事業の基本であり、職員一人ひとりがそのことを常に念頭に置いて日々の業務にあたるよう心がけました。

また、遊具の安全確認、適切な見守り配置、子どもたちへの声掛け、準備運動等、様々な取組みについて定期的に見直すとともに、館長会議や各施設の会議にて、他施設での事故事例を共有し、類似事故の防止対策を検討することにより、本部・各館が一丸となって事故ゼロ運動を推進しました。

また、利用児童が怪我を負った場合は「事故対応マニュアル」に基づいて、迅速かつ適切な対応に努めました。

① こども文化センターでの事故について

こども文化センターで起きた17件の事故のうち、10件は集会室での事故となっています。集会室での事故を防止するためにも、集会室を利用する児童には、準備運動を促すとともに、職員の定期的な見守りと声かけを強化し、事故減少に努めました。

過去5年間のこども文化センターにおける事故の件数

月	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
4月	2 (0)人	1 (1)人	2 (1)人	2 (0)人	0 (0)人
5月	2 (1)人	1 (0)人	2 (1)人	3 (1)人	2 (1)人
6月	1 (0)人	3 (1)人	1 (0)人	4 (2)人	2 (2)人
7月	1 (0)人	2 (1)人	3 (1)人	1 (0)人	2 (0)人
8月	6 (3)人	1 (1)人	1 (1)人	3 (1)人	3 (1)人
9月	2 (1)人	2 (1)人	2 (0)人	2 (1)人	2 (0)人
10月	3 (2)人	2 (0)人	3 (1)人	2 (0)人	3 (0)人
11月	1 (0)人	4 (0)人	1 (1)人	4 (1)人	1 (1)人
12月	0 (0)人	2 (1)人	3 (1)人	2 (1)人	1 (1)人
1月	0 (0)人	3 (3)人	0 (0)人	1 (1)人	1 (1)人
2月	4 (1)人	3 (2)人	5 (5)人	2 (0)人	0 (0)人
3月	2 (1)人	1 (1)人	5 (1)人	0 (0)人	0 (0)人
計	24 (9)人	25 (12)人	28 (13)人	26 (8)人	17 (7)人

* () は4日以上通院の事故内数(2020年3月31日現在)

② わくわくプラザでの事故について

わくわくプラザにおける事故件数は129件となっています。発生率の高い怪我としては、擦傷・打撲44件、捻挫・突き指28件、骨折(ヒビ含む)23件が挙げられます。

過去5年間のわくわくプラザにおける事故の件数

月	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
4月	9 (0)人	12 (6)人	14 (3)人	21 (5)人	15 (3)人
5月	13 (2)人	16 (3)人	20 (3)人	14 (2)人	11 (3)人
6月	11 (7)人	11 (6)人	14 (6)人	15 (4)人	18 (4)人
7月	9 (1)人	13 (6)人	17 (4)人	11 (2)人	13 (4)人
8月	13 (5)人	4 (0)人	15 (5)人	8 (1)人	9 (1)人
9月	10 (3)人	12 (1)人	5 (0)人	4 (2)人	3 (0)人
10月	10 (2)人	17 (4)人	7 (3)人	9 (3)人	12 (4)人
11月	10 (4)人	14 (2)人	17 (5)人	16 (6)人	16 (3)人
12月	10 (2)人	19 (2)人	17 (4)人	10 (0)人	10 (0)人
1月	12 (4)人	6 (1)人	7 (3)人	12 (2)人	11 (1)人
2月	11 (5)人	8 (0)人	10 (1)人	9 (0)人	8 (1)人
3月	10 (3)人	11 (2)人	11 (0)人	9 (0)人	3 (1)人
計	128 (38)人	143 (33)人	154 (37)人	138 (27)人	129 (25)人

* () は4日以上通院の事故内数 (2020年3月31日現在)

③ その他の場所での事故について

わくわくプラザの登下校時の事故は18件でした。

児童が退室する際は、気を付けるよう注意喚起するとともに、一人帰りの児童の保護者に対し、帰宅時間や経路について、児童と一緒に検討していただくよう、迎え時やたよりを通して働きかけました。

また、利用児童と共に地域の危険箇所を確認しながら安全マップを作成し、掲示することを通じて、子供たちの安全意識の向上に努めました。

(イ) 感染症予防対策

感染症、食中毒等の予防策として、手洗い、うがいを励行するとともに、児童の弁当や行事に使用する食品の管理を徹底しました。

また、9月に橘小学校が嘔吐、下痢症状での多数欠席者の発生によって臨時休業となった際には、橘小学校わくわくプラザも臨時休室とし、プラザ室内の消毒作業を実施するとともに、開室後も衛生管理を徹底しました。

さらに、1月以降発生している新型コロナウイルス感染症への対応については、利用者、職員の感染を防ぐため、手洗い、うがい、換気、マスク着用等の衛生管理を徹底しました。特に、わくわくプラザでは、国が実施する補助制度「新型コロナウイルスの感染拡大防止を図る事業」に取り組み、次の衛生用品等を39,144,652円分購入し、配布しました。

用途	品名等
空気清浄等	ダイソン空気加湿清浄機 (新規設置) 空気清浄機用交換フィルター (既存機種用)

	除菌剤（クレベリン）
手洗い、うがい	オートソープディスペンサー 手洗い用薬液 うがい液（職員用） ペーパータオル、カウンスクロス 手指消毒液
清掃・消毒	抗菌消臭剤 使い捨て手袋 おう吐物処理用品一式
その他	トランシーバー中継器（空き教室などの活用のため）

このほか、川崎市よりスタッフ用マスク 31,000 枚（およそ一か月分）、児童用マスク 15,500 枚（体調の悪い児童用）、手指消毒液 358 本の支給を受け、役立てました。

（ウ）防災対策

災害に備え、毎月、訓練を実施し、避難訓練や防災用品等の点検を行うとともに、災害伝言ダイヤルを活用した連絡手段を利用者に周知しました。

また、わくわくプラザでは、年二回、災害時等の対応について小学校と確認し、保護者に対して、連絡、引き取り方法等を周知するとともに、暴風警報等が発令された際には、配信メールシステムを使用して、わくわくプラザの対応を周知しました。

（エ）その他の安全対策

①防犯対策

各こども文化センターの外側に設置された防犯カメラを活用するとともに、訪問者の目的や様子を把握するため、職員からあいさつを行うなど、不審者の侵入を抑制しました。

また、各施設が、学校や地域から不審者情報を得た場合は、利用者に注意喚起するとともに、本部を経由して、他施設に伝達し、事件・事故の予防に努めました。

②食物アレルギーへの対応

次の基本ルールを遵守し、子どもたちのアレルギー事故防止に取り組みました。

施設名	対応策
共通	① アレルギーを持つ児童が差別されないよう、食物アレルギーについての啓発活動に努める。 ② 児童がアナフィラキシーショックを起こした場合に備え、アドレナリン自己注射薬（エピペン）の投与等、応急処置ができるようにアレルギー研修の受講を職員に義務付ける。
こども文化センター	① 当財団が単独で主催する行事等で食物を提供する場合は、事前申込制とし、アレルゲンの確認については、児童ではなく、保護者にさせていただくことを基本とする。 ② 共催行事等で、食物を提供する場合は、上記ルールの適用を保護者や関係者の理解を得ながら進める。

ナウンサーがこども文化センターを訪問し、児童や活動の様子が、生放送で伝えられました。（3月の放送については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により出演を見送りました）

ク 効果的な研修計画の策定・実施

青少年健全育成事業のサービス向上には、職員の資質向上が欠かせません。勤務経験や職位に応じた各種研修を計画的に実施するとともに、神奈川県や川崎市等、他の団体が主催で行う研修にも積極的に参加し、職員のスキルアップや資格の取得を進めました。

今年度は、財団主催の職員研修として、規模の大きいわくわくプラザの担当者を対象に「わくわくプラザ担当研修」を実施しました。各施設の課題を話し合い、問題解決につなげるとともに、今後のわくわくプラザ運営に反映させ、職員の能力を最大限発揮できるようスキルの向上を図りました。

「新任館長・職員研修」では、適切に業務に従事するための基礎知識を身につけることを目的に、年間を通じて実施しました。また、グループ、館ごとに、地域性を重視した研修を実施するとともに、各館に職員ごとの研修受講名簿を備え、職員が必要とする研修を効率・効果的に受講できるよう心がけました。

各研修と受講者数については【30頁：別表3】に記載。

ケ 教育実習・インターンシップ等への対応

当財団の社会貢献の一つとして、教育実習生、職業体験、まち探検、ボランティアなど、延べ2, 834人を受け入れました。また、社会体験研修として教諭1人を受け入れました。

施設ごとの受入状況については【37頁：別表4】に記載。

コ いじめ等による子どもの変化の気づきについて

いじめや虐待、不登校等、子どもを取り巻く社会問題は多様化・複雑化が進んでおり、痛ましい事件も後を絶ちません。川崎市からも、虐待の疑いなどの気づきがあった場合は組織的な対応をし、複数の機関で見守る体制を整えることが求められています。

虐待が疑われる児童の報告フローや、早期発見のチェックリストを活用し、被虐待児の把握に努め、川崎市へ報告する体制を整えるとともに、各区要保護児童対策地域協議会に代表館長が出席し、情報共有に努めました。

また、昨年度に引き続き、できるだけ多くの小・中・高校生に「いのちの大切さ」を体験学習してもらうために「乳幼児親子と小中高生とのふれあい事業」や「命の大切さを伝える読み聞かせ事業」を拡充しました。

（4）地域子育て支援センター（連携型）事業

「地域子育て支援センター（連携型）」とは、川崎市が実施している地域子育て支援事業の一つで、比較的利用の少ない午前中のこども文化センターを利用し、子育て中の親子の交流の場や子育てに関する相談・援助の場として、また、地域の子育て情報の提供の場として設置されています。当財団は、この業務を今年度、8ヶ所で受託し、「ふぁみいゆ」という名称で週3日（9：30～12：30）開設しました。

今年度は、延べ27,201人の乳幼児親子が利用しました。各施設の利用者数については【42頁：別表5】に記載。

(5) 小杉地区子ども・子育て支援推進事業

小杉地区の再開発に伴い、小杉こども文化センターが休止となったことにより、川崎市は、子ども・子育て世代が増加している小杉地区において、子どもが安心して安全に過ごすことのできる居場所として、また、小杉こども文化センターの代替的機能を持つ施設として「小杉地区子ども・子育て支援推進事業（愛称 小杉っこスペース）」を設置しました。当財団では、この業務を受託し、2016年6月より運営を開始しました。また、2017年10月よりプレハブ2階建て（総合自治会館隣）の施設に移転しました。

利用状況

利用者種別	2017年度	2018年度	2019年度	前年度比較 (増減)
乳幼児	2,967人	4,250人	4,081人	▲169人
小学生	3,151人	5,854人	5,085人	▲769人
中学生	780人	1,369人	1,241人	▲128人
高校生	26人	152人	103人	▲49人
成人	3,068人	4,288人	3,975人	▲313人
利用者合計	9,992人	15,913人	14,485人	▲1,428人
内団体利用人数	0人	0人	0人	0人

(6) 小杉こども文化センター開設準備委託

小杉こども文化センターは、2020年度8月に開設予定となっており、開設までの準備についての業務を川崎市から受託しました。

今年度は、旧小杉こども文化センター運営協議会委員や地域の方々により構成された「運営協議会の再構築に向けた準備会」を発足し、利用方法や必要備品などについて、準備を進めました。

【別表 1】音楽室の利用状況

施 設 名	利 用 者	2017 年度	2018 年度	2019 年度	前年度比較 (増減)
南 河 原	小 学 生	537 人	519 人	468 人	▲51 人
	中 学 生	393 人	197 人	89 人	▲108 人
	高 校 生	237 人	410 人	358 人	▲52 人
	一 般	461 人	531 人	688 人	157 人
	合 計	1,628 人	1,657 人	1,603 人	▲54 人
	団 体 数	663 団体	703 団体	811 団体	108 団体
宮 崎	小 学 生	81 人	44 人	48 人	4 人
	中 学 生	24 人	60 人	26 人	▲34 人
	高 校 生	813 人	836 人	622 人	▲214 人
	一 般	996 人	1,242 人	1,160 人	▲82 人
	合 計	1,914 人	2,182 人	1,856 人	▲326 人
	団 体 数	1,256 団体	1,402 団体	1,254 団体	▲148 団体
白 山	小 学 生	11 人	20 人	10 人	▲10 人
	中 学 生	80 人	52 人	34 人	▲18 人
	高 校 生	642 人	508 人	450 人	▲58 人
	一 般	1,312 人	1,227 人	776 人	▲451 人
	合 計	2,045 人	1,807 人	1,270 人	▲537 人
	団 体 数	1,266 団体	1,177 団体	761 団体	▲416 団体
計	小 学 生	629 人	583 人	526 人	▲57 人
	中 学 生	497 人	309 人	149 人	▲160 人
	高 校 生	1,692 人	1,754 人	1,430 人	▲324 人
	一 般	2,769 人	3,000 人	2,624 人	▲376 人
	合 計	5,587 人	5,646 人	4,729 人	▲917 人
	団 体 数	3,185 団体	3,282 団体	2,826 団体	▲456 団体

【別表２】合同事業一覧

実施単位	開催日	内 容	参加数	開催場所
川 崎 区 1 ～ 3 G	12月7日	川崎市マンカラ大会 2019	135人	ふれあいプラザ かわさき2階ホール
川 崎 区 第 1 G	12月24日	ふれあいコンサート	219人	ふれあいプラザ かわさき2階ホール
川 崎 区 第 2 G	10月9日	カローリング大会へ行こう！！	24人	川 中 島 中 学 校 体 育 館
川 崎 区 第 3 G	8月20日	サマーコンサート令和 First in 県立川崎	98人	神 奈 川 県 立 川 崎 高 等 学 校
幸 区 第 1 G	12月26日	ドッジボール大会	162人	戸 手 小 学 校 体 育 館
幸 区 第 2 G	12月26日	ふれあいコンサート	174人	川崎市立橘高等学校 第 2 アリーナ
中 原 区 1 ～ 2 G	12月26日	橘高校吹奏楽部コンサート	171人	橘 高 等 学 校 第 2 アリーナ
中 原 区 第 3 G	1月11日	マンカラ交流戦	41人	玉 川 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中 原 区 第 4 G	10月27日	乳幼児と高校生のふれあい交流会	29人	新 城 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	12月27日	わくわく交流会	129人	大 戸 小 学 校 体 育 館
高 津 区 1 ～ 3 G	9月21日	こぶりんピック ～めざせ 2020！～	208人	高 津 小 学 校 体 育 館
高 津 区 第 1 G	7月1日	ドッジスタジアム 令和元年杯	73人	下 作 延 小 学 校 体 育 館
高 津 区 第 1 G	12月21日	乳幼児とのふれあい交流会 「みんなであそぼう♪」	50人	高津こども文化センター 集 会 室
高 津 区 第 2 G	6月15日	ニヶ領用水クリーン大作戦	52人	ニヶ領用水沿い
高 津 区 第 2 G	10月15日	第7回わくリンピック (台風のため、会場が避難所となり中止)	0人	東 高 津 小 学 校 体 育 館
高 津 区 第 2 G	1月18日	ニヶ領用水クリーン大作戦	42人	ニヶ領用水沿い
宮 前 区 1 ～ 2 G	12月14日	ドッチビー大会 ～みやリンピックシーズン 10～	277人	土 橋 小 学 校 体 育 館

実施単位	開催日	内 容	参加数	開催場所
宮 前 区 第 1 G	11月30日	オータムコンサート	87人	有 馬 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
宮 前 区 第 1 G	2月8日	防犯スポーツプロジェクト	42人	宮 崎 小 学 校 体 育 館
宮 前 区 第 2 G	2月1日	ら・ら・ら ふれんど マンカラ大会	45人	平 小 学 校 視 聴 覚 校 室
多 摩 区 1 ～ 3 G	9月28日	ゴーゴーたまリンカップ！マンカラ大会 2019	485人	中 野 島 小 学 校 体 育 館
多 摩 区 第 1 G	7月13日	防災炊き出し宿泊体験	37人	長 尾 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
多 摩 区 第 1 G	1月6日	枳形・長尾スポーツスタッキング☆ チャンピオンシップ	40人	枳 形 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
多 摩 区 第 2 G	9月7日	集まれネイチャーキッズ！ 黒川でわくわくデイキャンプ	28人	黒 川 青 少 年 野 外 活 動 セ ン タ ー
多 摩 区 第 2 G	10月19日	忍の国へようこそ～レッツ！忍者修行～	57人	生 田 小 学 校 体 育 館
多 摩 区 第 2 G	1月7日	新年おたのしみ交流会	98人	錦 ケ 丘 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
多 摩 区 第 3 G	12月7日	地域ふれあいステージ	282人	西 菅 小 学 校 体 育 館
麻 生 区 1 ～ 3 G	12月7日	マンカラ大会	538人	王 禅 寺 中 央 小 学 校 体 育 館
麻 生 区 第 2 G	9月28日	グッドイートランチ	42人	王 禅 寺 老 人 家 い こ い の
麻 生 区 第 3 G	11月30日	フレンズステージ 2019	263人	麻 生 小 学 校 体 育 館

【別表 3】研修実施状況

①財団主催研修（全市合同）

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
新 任 館 長 ・ 新 任 職 員 研 修 （ 全 5 日 間 開 催 ）	主幹、係長、主任、本部職員 中原消防署、社会保険労務士	館 長 員 職 員	延べ 95 人	財 団 本 部 中 原 消 防 署
主 任 研 修	自主研修	主 任	20 人	財 団 本 部
主 任 本 部 体 験 研 修 （ 全 3 日 間 開 催 ）	本部職員 (職員係・施設係・事業係、予算 係・エリアマネージャー)	主 任	2 人	財 団 本 部
わ く わ く プ ラ ザ 担 当 研 修	わくわくプラザ巡回相談員 川島 郁子氏	主 任 員 職 員	7 人	財 団 本 部
新 任 職 員 研 修 （ 全 2 日 間 開 催 ）	主幹、係長、主任、本部職員	職 員	延べ 28 人	中 原 市 民 館 財 団 本 部

* 新任職員研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため「フォローアップ研修」は中止となりました。

②財団主催研修（グループ単位）

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参 加 数	開 催 場 所
川 崎 区 第 1 ～ 3 G	ク レ ー ム 対 応	殿町こども文化センター 館長 中村 正信氏	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	64 人	旭 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	チ ー フ 情 報 交 換 研 修	川崎区第 1 ～ 3 G こども文化センター 館長 9 名	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	57 人	旭 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	川 崎 区 市 民 救 命 士 養成講習（全 2 日間開催）	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	延べ 47 人	旭 町 ・ 日 新 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
川 崎 区 第 1 G	こ ど も 救 急 箱 ～けが・病気別対処法～	川崎幸病院 看護師 主任 中澤 亜希氏	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	26 人	渡 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
川 崎 区 第 2 G	中 高 生 へ の 対 応 研 修	川中島中学校 射越武男校長 生徒指導担当 総括教諭 森島 毅氏	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	14 人	川 中 島 中 学 校
川 崎 区 第 3 G	防 火 研 修	川崎市まちづくり局市街地整備 部防災まちづくり推進課 密集市街地担当 主任 小黒氏・職員 宮下氏 浅田こども文化センター 館長 成田 佳奈氏	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	56 人	浅 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
幸 区 第 1 ・ 2 G	幸 区 市 民 救 命 士 養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 員 職 員 臨 時 職 員	29 人	下 平 間 こ ど も 文 化 セ ン タ ー

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参 加 数	開 催 場 所
幸 区 第 1 G	中 学 生 ・ 高 校 生 の 居 場 所 づ く り	川崎市教育委員会事務局 学校教育部幸区・教育担当 指導主事 三浦 和弘氏 田中 康子氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	19 人	幸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	ポ ッ チ ャ 研 修	幸区役所 まちづくり推進部 地域振興課 担当係長 横田 光徳氏 幸スポーツセンター 館 長 太田 哲也氏 副館長 高橋 創一氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	38 人	幸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中 原 区 第 1 ～ 4 G	中 原 区 市 民 救 命 士 養 成 講 習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨 時 職 員	34 人	新 丸 子 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中 原 区 第 1 ・ 2 G	ア ン ガ ー マ ネ ジ メ ン ト	日本アングーマネジメント協会 加藤聡子氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	29 人	新 丸 子 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中 原 区 第 3 G	ポ ッ チ ャ 体 験 研 修	川崎市市民文化局 市民スポーツ室 職員	館 長 職 員 臨 時 職 員	30 人	平 間 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中 原 区 第 4 G	子 ど も の ケ ガ 対 応	青少年事業課 巡回相談員 佐藤 治恵氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	42 人	大 戸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	遊 び の 研 修	武 幸子 氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	25 人	大 戸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	地域包括ケアシステム研 修	中原区役所地域みまもり支援 センター 地域ケア推進課 企画調整係長 深谷 英司氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	16 人	大 戸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	川崎市ぼうさい出前講座	川崎市 総務企画局 危機管理室 名原 南氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	13 人	大 戸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
高 津 区 第 1 ～ 3 G	高 津 区 市 民 救 命 士 養 成 講 習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨 時 職 員	30 人	高 津 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
高 津 区 第 1 G	応 急 手 当	日本赤十字社 救急法指導員 菅野 絹江氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	36 人	上 作 延 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	食品衛生管理と感染症予 防・環境衛生について	地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所) 衛生課 苫米地 大輔氏 佐々木 美保氏 鳥 畑 晴加氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	40 人	高 津 こ ど も 文 化 セ ン タ ー

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参 加 数	開 催 場 所
高 津 区 第 2 G	衛 生 管 理	高津区役所地域みまもり支援 センター衛生課 佐々木 美穂氏 村 山 由里子氏 鳥 畑 晴加氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	33 人	二 子 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
高 津 区 第 3 G	食品衛生管理と感染症予 防 に つ い て	高津区役所地域みまもり支援 センター衛生課 西 尾 さや氏 佐々木 美保氏 鳥畑 晴加氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	38 人	末 長 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	他 施 設 研 修	高津区第3 G わくわくプラザリーダー 7 名	臨 時 職 員	21 人	各 わ く わ く プ ラ ザ
宮 前 区 第 1 ・ 2 G	衛 生 管 理	宮前区役所地域みまもり支援 センター衛生課 兵頭 彩音氏、原田 怜氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	35 人	有 馬 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	ド ッ チ ビ ー 審 判 研 修	野川こども文化センター 職員 緒方 治氏 有馬こども文化センター 職員 今井 百合氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	30 人	有 馬 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	ド ッ チ ビ ー 審 判 研 修	野川こども文化センター 職員 中川 尚樹氏 宮崎こども文化センター 職員 永田 一輝氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	43 人	宮 崎 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	児 童 虐 待 研 修	部児童相談所 所長 出路 幸夫氏 中部児童相談所 相談調整担当 係長 石田 博己氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	52 人	野 川 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	宮 前 区 市 民 救 命 士 養 成 講 習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨 時 職 員	25 人	宮 崎 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
宮 前 区 第 1 G	野 外 炊 事 事 前 研 修	宮崎こども文化センター 職員 阿部 円香氏	館 長 職 員	10 人	川 崎 市 青 少 年 の 家
	中 高 生 対 応 研 修	教育委員会事務局 学校教育部 宮前区教育担当 指導主事 戸石 賢二氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	29 人	有 馬 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	防 犯 ・ 不 審 者 対 応 研 修	宮前警察署 生活安全課 大原氏・小笠原氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	28 人	野 川 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
宮 前 区 第 2 G	マンカラ ルール研修	宮前平こども文化センター 館長 黒澤 きよみ氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	22 人	宮 前 こ ど も 文 化 セ ン タ ー

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参 加 数	開 催 場 所
多 摩 区 第 1 ～ 3 G	リ フ レ イ ミ ン グ	南菅こども文化センター 館長 新井 正明氏	館 長 員 職 臨 時 職 員	36 人	南 菅 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	多摩区 市民救命士養成 講習（全 2 日間開催）	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 員 職 臨 時 職 員	延べ 44 人	菅 ・ 中 野 島 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
多 摩 区 第 1 G	野 外 活 動	枳形こども文化センター 館長 小林 謙二氏	館 長 員 職	6 人	南 菅 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
多 摩 区 第 2 G	野 外 活 動	錦ヶ丘こども文化センター 館長 白井 和彦氏 三田こども文化センター 館長 瀬戸山 隆氏	館 長 員 職	5 人	黒川青少年野外活動 セ ン タ ー
	応急手当・衛生管理研修	多摩区役所地域みまもり支援 センター（福祉・保健所支所） 担当課長・医師 眞川幸治氏	館 長 員 職 臨 時 職 員	30 人	錦 ケ 丘 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	ポ ッ チ ャ 研 修	川崎市市民文化局 市民スポーツ室 鶴井 純一朗氏	館 長 員 職 臨 時 職 員	21 人	錦 ケ 丘 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
多 摩 区 第 3 G	応急手当・衛生管理研修	多摩区役所地域みまもり支援 センター（福祉・保健所支所） 担当課長・医師 眞川 幸治氏	館 長 員 職 臨 時 職 員	26 人	中 野 島 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
麻 生 区 第 1 ～ 3 G	け ん 玉 指 導 研 修	公益社団法人日本けん玉協会 神奈川県支部 橋本 雅之氏・柳川 光子氏	館 長 員 職 臨 時 職 員	48 人	麻 生 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
	麻生区 市民救命士 養 成 講 習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 員 職 臨 時 職 員	27 人	百 合 丘 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
麻 生 区 第 1 G	他 施 設 体 験 研 修	麻生区第1 G わくわくブラザリーダー 7 名	職 員 臨 時 職 員	22 人	各 わ く わ く プ ラ ザ
	防 災 研 修	麻生区危機管理室 職員 中島氏 東百合丘こども文化センター 館長 白鳥 秀樹氏	館 長 員 職 臨 時 職 員	30 人	百 合 丘 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
麻 生 区 第 2 G	災害時（地震）及び不審者 対 応 に つ い て	災害時対応 柿生こども文化センター 館長 土橋元明氏 不審者対応 セノン警備部 職員 4 名	館 長 員 職 臨 時 職 員	41 人	柿 生 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
麻 生 区 第 3 G	衛 生 管 理	麻生区役所 地域みまもり支援センター 大原 千恵氏 北沢 実乃莉氏 肥後 美千代氏	館 長 員 職 臨 時 職 員	17 人	麻 生 こ ど も 文 化 セ ン タ ー

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参 加 数	開 催 場 所
	発 達 に 課 題 の あ る 子 ど も た ち の 見 方 と ア プ ロ ー チ 方 法	LITARICO ジュニア関内教室 児童発達支援管理責任者 前平 八千代氏	館 長 職 員 臨 時 職 員	20 人	白 山 こ ど も 文 化 セ ン タ ー

③川崎市主催研修

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
第1回 接 遇 ・ 応 対	エグゼクティブコンサルタント 花田 恵美氏	館 長 職 員 臨時職員	132 人	生涯学習プラザ
第2回 児 童 虐 待	川崎市こども未来局児童家庭支 援・児童虐待対策室 精神科医 担当部長 大塚 俊弘氏	館 長 職 員 臨時職員	146 人	生涯学習プラザ
第3回 特別な配慮が必要な児童への対応	川崎市教育委員会事務局 学校 教育部指導課小中高等学校支援 教育担当 伊藤 琢也氏	館 長 職 員 臨時職員	142 人	生涯学習プラザ
第4回 て ん か ん 発 作 対 応	川崎市教育委員会事務局 学校教育部 健康教育課 田中 理恵氏	館 長 職 員 臨時職員	138 人	生涯学習プラザ
第5回 学 校 や 地 域 と の 連 携	日本女子大学 人間社会学部教育学科 教授 田中 雅文氏	館 長 職 員 臨時職員	132 人	生涯学習プラザ
第6回 安 全 管 理 ・ 事 故 防 止	川崎市教育委員会事務局 学校教育部 川崎区教育担当 担当課長 小林 格 氏	館 長 職 員 臨時職員	139 人	生涯学習プラザ
第7回 中 高 生 へ の 対 応	川崎市総合教育センター 教育相談センター 指導主事 松田 典英氏	館 長 職 員 臨時職員	135 人	生涯学習プラザ
第8回 保 護 者 ・ 家 庭 と の 連 携	英国公認カウンセラー 前田 節子 氏	館 長 職 員 臨時職員	162 人	生涯学習プラザ
第9回 外国につながる子どもの支援	多文化活動連絡協議会 代表 中村ノーマン氏	館 長 職 員 臨時職員	140 人	生涯学習プラザ
第10回 衛 生 管 理 研 修	一般社団法人 川崎市食品衛生協会	館 長 職 員 臨時職員	112 人	生涯学習プラザ
第11回 応 急 手 当 研 修	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	47 人	生涯学習プラザ
第12回 応 急 手 当 研 修	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	55 人	生涯学習プラザ
第13回 子 ど も の 権 利	川崎市こども未来局 青少年支援室 室長 市川 洋氏	館 長 職 員 臨時職員	120 人	生涯学習プラザ
第14回 特別な配慮が必要な児童への対応	川崎市総合教育センター 特別支援教育センター 指導主事 中村 めぐみ氏	館 長 職 員 臨時職員	130 人	生涯学習プラザ

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
第15回 ア レ ル ギ ー 対 応	川崎幸病院 看護師／主任 小児アレルギーエドゥケーター 望月 勢津子 氏	館 長 職 員 臨時職員	105 人	生涯学習プラザ
第16回 不 登 校 児 対 応	フリースペース たまりば 理事長 西野 博之氏	館 長 職 員 臨時職員	103 人	生涯学習プラザ
遊びや活動の支援「救急法」 (全 3 回 開 催)	Wilderness Medical AssociatesJapan 寺田達也氏 特定非営利活動法人 国際自然大学校職員	館 長 職 員 臨時職員	延べ 112 人	黒川青少年野外 活 動 セ ン タ ー
野 外 活 動 「ス マ ー ト B B Q」 (全 3 回 開 催)	特定非営利活動法人 国際自然大学校 職員	館 長 職 員 臨時職員	延べ 94 人	黒川青少年野外 活 動 セ ン タ ー
遊びや体験の支援「ブッシュクラフト」 (全 3 回 開 催)	特定非営利活動法人 国際自然大学校 職員	館 長 職 員 臨時職員	延べ 54 人	黒川青少年野外 活 動 セ ン タ ー
遊びや体験の支援「レクリエーション」 (全 3 回 開 催)	特定非営利活動法人 国際自然大学校 職員	館 長 職 員 臨時職員	延べ 50 人	黒川青少年野外 活 動 セ ン タ ー

④資格取得研修

研 修 名	講 師	対 象	取 得 者 数	開 催 場 所
甲 種 防 火 管 理 者 講 習 会	川崎市消防防災指導公社	館 長	2 人	川崎日航ホテル
甲種防火管理者講習会（再受講）	神奈川県消防設備安全協会	館 長	1 人	おだわら市民 交 流 セ ン タ ー
甲 種 防 火 管 理 者 講 習 会	川崎市消防防災指導公社	主 任	1 人	か わ さ き 保 育 会 館
児 童 厚 生 員 等 基 礎 研 修 会 (児 童 厚 生 2 級)	一般財団法人 児童健全育成推進財団	職 員	13 人	つま恋リゾート 彩 の 郷
神奈川県放課後児童支援員認定資格 (7月、12月、2月開催)	(株)東京リーガルマインド	館 長 職 員 臨時職員	延べ 81 人	高 津 市 民 館 エポック中原 横 浜 市 技 能 文 化 会 館
評 価 調 査 者 登 録 更 新 研 修	かながわ福祉サービス 第三者評価推進機構	館 長 係 長	延べ 8 人	神 奈 川 県 社 会 福 祉 会 館
雇 用 環 境 整 備 士 資 格 講 習 会	社団法人 日本雇用環境整備機構	本部職員	2 人	中野サンプラザ

【別表 4】教育実習等の受入状況

①児童館教育実習生の受入状況

依 頼 学 校 名	人 数	実 習 場 所	実習期間
草 苑 保 育 専 門 学 校	5 人	高 津 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	11 日
		宮 崎 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	
		菅 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	
		南 菅 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	
		下 平 間 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	
昭 和 女 子 大 学	1 人	末 長 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	12 日
実 践 女 子 大 学	1 人	幸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	11 日
有 明 教 育 芸 術 短 期 大 学	3 人	北 加 瀬 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	12 日
		新 城 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	
		玉 川 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	
東 京 都 市 大 学	2 人	西 加 瀬 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	12 日
		住 吉 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	
小 田 原 短 期 大 学	4 人	東 百 合 丘 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	10 日
		平 間 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	
		麻 生 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	
		百 合 丘 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	
東 京 Y M C A 社 会 体 育 ・ 保 育 専 門 学 校	1 人	枅 形 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	10 日
目 白 大 学	1 人	宮 内 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	11 日
川 崎 市 立 看 護 短 期 大 学	1 人	長 尾 こ ど も 文 化 セ ン タ ー 柿 生 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2 日
鎌 倉 女 子 大 学	1 人	南 河 原 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	12 日
	1 人	殿 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	

* 鎌倉女子大学実習生 2 名の後半の実習は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となりました。

②小学校・中学校生の職業体験の受入状況

学 校 名		人 数	実 習 場 所	実習期間
川崎区	臨 港 中 学 校	15人	田 島 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	20日
	小 田 小 学 校	4人	小 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	川 崎 小 学 校	10人	日 進 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
幸区	御 幸 中 学 校	4人	南 河 原 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
	御 幸 中 学 校	6人	幸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
	塚 越 中 学 校	2人	幸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	塚 越 中 学 校	5人	下 平 間 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
	日 吉 中 学 校	3人	北 加 瀬 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	塚 越 中 学 校	3人	北 加 瀬 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
中原区	中 原 中 学 校	3人	新 丸 子 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	玉 川 中 学 校	4人	玉 川 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	今 井 中 学 校	7人	住 吉 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	西 中 原 中 学 校	12人	新 城 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
	西 中 原 中 学 校	8人	大 戸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	日 吉 中 学 校	2人	西 加 瀬 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	宮 内 中 学 校	6人	宮 内 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	宮 内 中 学 校	6人	東 高 津 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
高津区	東 橘 中 学 校	2人	高 津 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	東 高 津 中 学 校	5人	二 子 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	東 高 津 中 学 校	6人	東 高 津 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	東 高 津 中 学 校	4人	末 長 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	東 橘 中 学 校	12人	子 母 口 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
	宮 崎 中 学 校	3人	梶ヶ谷 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
宮前区	有 馬 中 学 校	6人	有 馬 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
	野 川 中 学 校	8人	野 川 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
多摩区	宿 河 原 小 学 校	30人	枹 形 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	5日
	宿 河 原 小 学 校	45人	長 尾 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	5日
	稲 田 中 学 校	4人	長 尾 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	南 生 田 中 学 校	12人	錦ヶ丘 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
	生 田 中 学 校	6人	枹 形 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日

	生 田 中 学 校	4人	三 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
	菅 中 学 校	8人	菅 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
麻生区	柿 生 中 学 校	7人	柿 生 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2日
	王禅寺中央中学校	7人	王 禅 寺 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	王禅寺中央中学校	5人	白 山 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日
	麻 生 中 学 校	4人	麻 生 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1日

③小学校・中学校生のまち探検（社会科見学）の受入状況

学 校 名		人 数	実 習 場 所	実習期間
川崎区	旭 町 小 学 校	15 人	旭 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
	宮 前 小 学 校	79 人	旭 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	3 日
	東 大 島 小 学 校	10 人	藤 崎 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2 日
	殿 町 小 学 校	23 人	殿 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
	田 島 小 学 校	23 人	殿 町 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
	田 島 小 学 校	2 人	渡 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
	大 師 小 学 校	4 人	大 師 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
	東 門 前 小 学 校	9 人	大 師 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
	渡 田 小 学 校	12 人	田 島 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
	浅 田 小 学 校	25 人	浅 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
	新 町 小 学 校	60 人	小 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
	東 小 田 小 学 校	13 人	小 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
	小 田 小 学 校	99 人	小 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2 日
幸区	戸 手 小 学 校	8 人	幸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2 日
	古 川 小 学 校	176 人	幸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2 日
	西 御 幸 小 学 校	47 人	幸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
	下 平 間 小 学 校	31 人	下 平 間 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2 日
	小 倉 小 学 校	9 人	小 倉 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
	日 吉 小 学 校	14 人	北 加 瀬 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
	富 士 見 中 学 校	4 人	南 河 原 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	1 日
中原区	住 吉 小 学 校	80 人	住 吉 こ ど も 文 化 セ ン タ ー	2 日

	下小田中小学校	13人	井田こども文化センター	1日
	上丸子小学校	5人	新丸子こども文化センター	1日
	西丸子小学校	9人	新丸子こども文化センター	1日
	新城小学校	9人	新城こども文化センター	1日
	荻宿小学校	30人	西加瀬こども文化センター	1日
	玉川小学校	100人	玉川こども文化センター	2日
	大谷戸小学校	226人	大戸こども文化センター	3日
	住吉中学校	5人	西加瀬こども文化センター	1日
高津区	上作延小学校	53人	上作延こども文化センター	1日
	下作延小学校	6人	高津こども文化センター	1日
	高津小学校	10人	高津こども文化センター	1日
	久本小学校	131人	二子こども文化センター	2日
	坂戸小学校	9人	二子こども文化センター	1日
	末長小学校	9人	末長こども文化センター	1日
	子母口小学校	11人	子母口こども文化センター	1日
	梶ヶ谷小学校	9人	梶ヶ谷こども文化センター	1日
	宮崎中学校	18人	梶ヶ谷こども文化センター	1日
	向丘中学校	7人	上作延こども文化センター	1日
宮前区	宮崎中学校	6人	宮前平こども文化センター	1日
	宮崎中学校	10人	宮崎こども文化センター	1日
	西有馬小学校	182人	有馬こども文化センター	1日
	宮崎小学校	33人	有馬こども文化センター	2日
	野川小学校	196人	野川こども文化センター	2日
	南野川小学校	5人	野川こども文化センター	1日
	西野川小学校	8人	野川こども文化センター	1日
	宮前平小学校	15人	宮崎こども文化センター	1日
	宮前平小学校	6人	宮前平こども文化センター	1日
	向丘小学校	13人	平こども文化センター	1日
	白幡台小学校	45人	白幡台こども文化センター	1日
多摩区	東生田小学校	15人	枅形こども文化センター	1日

	宿河原小学校	53人	長尾こども文化センター	2日
	生田小学校	75人	錦ヶ丘こども文化センター	1日
	南生田小学校	60人	錦ヶ丘こども文化センター	3日
	三田小学校	16人	三田こども文化センター	2日
	菅小学校	29人	菅こども文化センター	1日
	南菅小学校	5人	南菅こども文化センター	1日
	西菅小学校	10人	南菅こども文化センター	1日
	稲田中学校	5人	長尾こども文化センター	1日
麻生区	真福寺小学校	36人	白山こども文化センター	1日
	百合丘小学校	6人	百合丘こども文化センター	1日
	長沢小学校	17人	東百合丘こども文化センター	1日
	千代ヶ丘小学校	52人	千代ヶ丘こども文化センター	3日
	王禅寺中央小学校	12人	白山こども文化センター	1日
	麻生小学校	126人	麻生こども文化センター	2日
	柿生小学校	68人	柿生こども文化センター	1日

④チャレンジボランティア（夏期）の受入状況

主 催 者	人 数	受 入 場 所	受入期間
川崎市社会福祉協議会 区社会福祉協議会 川崎市公園緑地協会 川崎授産学園	9人	幸こども文化センター	3日

⑤社会体験研修（教諭）の受け入れ状況（上半期）

依 頼 学 校 名	人 数	受 入 場 所	受入期間
神奈川県立中原養護学校	1人	小倉こども文化センター	3日

⑥私立中学生・高校生ボランティアの受入状況

依 頼 学 校 名	人 数	受 入 場 所	受入期間
県立高津養護学校	15人	有馬こども文化センター	3日
森村学園中等部・高等部	2人	新丸子こども文化センター	1日
洗足学園中学校	2人	宮前平こども文化センター	1日

【別表 5】地域子育て支援センター（連携型）事業 利用状況

区	施設名	種 別	2017 年度 (9 施設)	2018 年度 (8 施設)	2019 年度 (8 施設)	前年度比較 (増減)
川崎区	ふあみいゆ 殿 町	児童	1,876 人	2,120 人	1,437 人	▲683 人
		成人	1,571 人	1,675 人	1,170 人	▲505 人
		合計人数	3,447 人	3,795 人	2,607 人	▲1,188 人
	ふあみいゆ 田 島	児童	1,989 人	1,666 人	1,588 人	▲78 人
		成人	1,691 人	1,421 人	1,393 人	▲28 人
		合計人数	3,680 人	3,087 人	2,981 人	▲106 人
	ふあみいゆ 浅 田	児童	2,762 人	2,255 人	1,527 人	▲728 人
		成人	2,169 人	1,789 人	1,266 人	▲523 人
		合計人数	4,931 人	4,044 人	2,793 人	▲1,251 人
幸区	ふあみいゆ 南 河 原	児童	3,169 人	2,751 人	2,084 人	▲667 人
		成人	3,040 人	2,587 人	1,967 人	▲620 人
		合計人数	6,209 人	5,338 人	4,051 人	▲1,287 人
	ふあみいゆ 幸	児童	2,950 人			
		成人	2,710 人			
		合計人数	5,660 人			
	ふあみいゆ 小 倉	児童	3,529 人	2,633 人	2,616 人	▲17 人
		成人	2,945 人	2,295 人	2,350 人	55 人
		合計人数	6,474 人	4,928 人	4,966 人	38 人
中原区	ふあみいゆ 平 間	児童	2,651 人	2,058 人	1,929 人	▲129 人
		成人	2,388 人	1,962 人	1,792 人	▲170 人
		合計人数	5,039 人	4,020 人	3,721 人	▲299 人
麻生区	ふあみいゆ 千 代 ケ 丘	児童	2,318 人	2,464 人	1,839 人	▲625 人
		成人	2,173 人	2,236 人	1,637 人	▲599 人
		合計人数	4,491 人	4,700 人	3,476 人	▲1,224 人
	ふあみいゆ 柿 生	児童	1,407 人	1,213 人	1,314 人	101 人
		成人	1,351 人	1,164 人	1,292 人	128 人
		合計人数	2,758 人	2,377 人	2,606 人	229 人
合 計		児童	22,651 人	17,160 人	14,334 人	▲2,826 人
		成人	20,038 人	15,129 人	12,867 人	▲2,262 人
		合計人数	42,689 人	32,289 人	27,201 人	▲5,088 人

3 法人の運営

2010年に公益財団法人としての認定を受け、その後、効果的な公益目的事業の実施と、法人としての役割・機能が発揮できる組織づくりを本部と現場が一体となって取り組みを進めてきました。また、当財団が実施している事業や財務に関して広く市民へ説明する責務を自覚して法人の運営を行いました。

ア 業務・組織の改革

法人全体の業務改善に取り組むとともに、事業計画の進捗管理を着実にを行い、コスト削減や効果的な事業の実施等を通じて、経営基盤の強化を図り、組織の総合力向上に努めました。

組織としての一体感の醸成や職員のスキルアップを図るため、各種研修等を実施するとともに、職員の意識改革の促進と人材育成にも取り組みました。

また、更なる業務の効率化を図るため、ワークフローシステムをクラウド環境に移行する準備を進めました。(2020年度夏に移行予定)

イ 財務改善

経理・会計処理では、公益法人会計基準に準拠した会計を的確に行うため、2013年9月1日からP C A公益法人会計ソフトを導入して実施しています。2014年度からは諸謝金の会計処理業務を委託から経理担当での直接実施に切り替えることにより、経費削減を図りました。また、各課との連携を図り、円滑な事務処理を行いました。

適正な会計処理の継続的な実施に向け、経理事務の改善を推進するとともに、安定した公益財団法人の経営を維持するために適切な財務管理を実施します。

ウ その他

2018年度の事業報告書等の提出については、関係書類等を作成し監事監査を経て理事会及び評議員会（定時評議員会）での承認を受け、2019年6月27日に行政庁(神奈川県)へ報告しました。関係書類等については事務所に備え置くとともに、貸借対照表を公衆の見やすい場所に掲示しました。

2019年度の事業計画書及び収支予算等の提出については、2019年3月14日の第4回理事会で承認を受け、3月26日に行政庁に報告しました。